

普及指導情報

「台風第23号の接近に伴う農作物等被害対策情報について」

(第42号)

令和7年10月10日

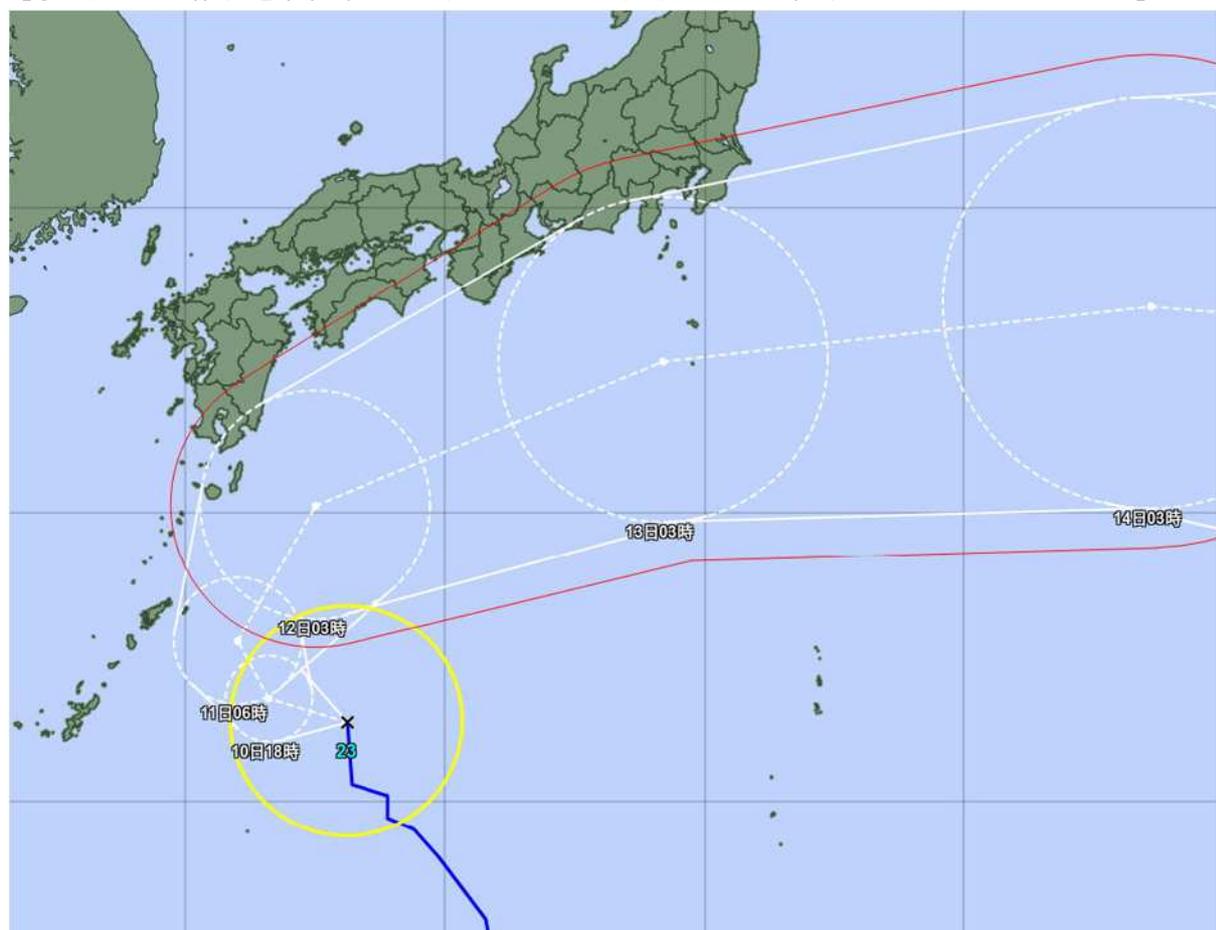
佐賀県農業技術防除センター

(表題) 台風第23号の接近に伴う農作物等被害対策情報について

(担当) 農業技術防除センター 専門技術部

- 気象庁の発表によると、台風第23号は、10月10日6時には南大東島の東北東約200キロにあり、1時間におよそ20キロの速さで北西へ進んでいます。中心の気圧は1,002ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は20メートルで最大瞬間風速は30メートルとなっています。
- 今後、台風は発達しながら、日本の南を北西に進んで大東島地方に接近し、その後は次第に進路を北よりに変えながら奄美地方に接近して、次第に進路を東よりに変えて日本の南を東北東に進む見込みです。
- このため、台風接近に伴う農作物等被害対策を別紙のとおり取りまとめましたので、被害を最小限に抑えるための現地指導を徹底してください。

【参考：進路予想図（10月10日6時時点、気象庁ホームページより）】



I 水稻

1. 生育ステージ

- (1) 普通期水稻：「ひなたまる」「ヒノヒカリ」「さがびより」 成熟期～収穫期
：「ヒヨクモチ」 登熟中後期

2. 事前対策

- (1) 収穫期を迎え、まだ収穫が終わっていない圃場では、台風前や台風通過後も排水口を整備するなど表面排水に努め、できるだけ早く収穫する。
- (2) 「ヒヨクモチ」では、強風による登熟阻害（乳白米、着色米などが増加し、品質の低下と共に千粒重も小さくなる）が懸念されるため、水田は深水にして水稻を保護する。

3. 事後対策

- (1) 収穫期を過ぎている圃場では、台風通過後は排水を促進し、早期収穫に努める。倒伏し、穂発芽がみられるような圃場では、台風通過後に被害の状況を見ながら分別荷受けを行う。
- (2) 台風通過後は、すみやかに落水する。倒伏した圃場では排水に努め、登熟促進と穂発芽防止を図る。
- (3) トビイロウンカの発生が多い圃場では、台風通過後に圃場を確認し、適切な防除に努める。

II 大豆

1. 生育ステージ

- (1) 現在、子実肥大期である。

本年は、8月中旬以降、大豆の生育量が急激に増大したため、7月上中旬播種や培土未実施圃場を中心に多くの圃場で倒伏が認められている。

2. 技術対策

- (1) 台風通過後は、葉の損傷による葉焼病に注意するとともに、紫斑病についても的確に防除する。
- (2) 降雨量が多くなれば、浸冠水が想定される。浸冠水の時間が長引けば、被害が増加することから、速やかな排水に努める。

III 野菜

1. 生育ステージ

- (1) 施設野菜の主要品目であるイチゴ、キュウリ、トマト、ナスは、概ね定植が終了し、一部の作型では収穫期や定植直後の品目もある。
- (2) 夏秋ナス、夏秋ピーマンは収穫終盤である。
- (3) アスパラガスは、夏芽の収穫終盤である。
- (4) コネギ、ハウレンソウ等は、播種時期の違いにより生育ステージはさまざまである。

(5)タマネギは育苗期であり、キャベツやブロッコリーは育苗期から生育期である。

2. 事前対策

(1) イチゴ

- ①予備苗等では、立ち枯れ症の株があると強い雨風による病原菌の飛散や長時間の濡れによる感染率の上昇が懸念されるので、直ちに発病株を除去、処分するとともに、台風接近前に殺菌剤による予防散布を必ず行う。
- ②苗床は寒冷紗等でべたがけし、寒冷紗が吹き飛ばないように直管パイプやブロック等で押さえる。
- ③育苗床・本圃ともに、台風が接近した場合、雨よけ用のビニルや遮光資材は取り除く。
- ④排水溝を再度確認し、緊急時のために強制排水の準備を行う。
- ⑤ビニルを被覆しているハウスで密閉が可能なハウスは、ハウスバンドを締め直し、台風の強さによっては、除去できるように準備を行う。
- ⑥加温機、自動開閉装置等の装置や関連施設の対応も十分に行う。
- ⑦高設栽培システムで、天井ビニルを除去している場合、ベツト間を直管パイプ等で連結し倒伏を防止する。
- ⑧タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。

(2) 施設ナス・キュウリ・トマト等

- ①密閉するハウスはハウスバンドを締め直し、稜面の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- ②栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、風が強くなったら換気扇を回す。
- ③株を倒せる位の生育であれば、台風の強さによっては、株を倒して寒冷紗等でベタ張りするなど、ビニルを除去できるように準備を行う。
- ④断水や停電時に灌水が不可能なハウスは、灌水用の水をハウス内に確保しておく。
- ⑤他はイチゴの④⑥⑧に同じ。

(3) 雨よけ野菜

- ①ハウレンソウやコネギ等収穫中の品目は、収穫できるものを早めに収穫する。
- ②栽培中のハウスは、防風ネットや寒冷紗等で被覆して耐風性を強化する。
- ③ハウスバンドやラセン杭を補強し、ビニルの破損部があれば修理する。
- ④台風接近時には妻とサイドのビニルを下ろし、風が吹き込まないようにする。
- ⑤ビニルを閉め込む場合は、直ちにビニルを除去できるよう準備を行う。
- ⑥アスパラガスは茎葉の損傷をできるだけ少なくするため、支柱が抜けないうように確認し、ネットをしっかりと張り直す。また、茎葉損傷等による草勢低下を防ぐため、事前に追肥を行う。
- ⑦播種予定のコネギやハウレンソウ等は、台風が通過した後、直ちに播種できるように、古ビニル等のべたがけを行う。
- ⑧明渠や排水溝を確認し、緊急時に備えて強制排水の準備を行う。
- ⑨台風通過後の水洗や防除等に備え、タンクに清水を汲んで置く。

(4) 露地野菜

- ①収穫できる果実は、早目に収穫する。
- ②支柱や防風ネットの補強を行う。

- ③風雨による損傷を軽減するため、茎葉を支柱に誘引する。
- ④マルチ等は、強風で飛ばないようにしっかり止めておく。
- ⑤タマネギでは、苗床の被覆資材やセルトレイに播種した育苗箱が強風で飛ばされないように海苔網等で抑える。
- ⑥他は雨よけ野菜の⑧⑨に同じ。

(5) その他

- ①セルトレイやポット等で育苗中のものは、倉庫等に搬入する。
- ②定植直後の圃場は、不織布等のべたがけを行う。

3. 事後対策

(1) イチゴ

- ①予備苗を寒冷紗等で被覆していた場合、台風通過後、直ちに取り除く。
- ②本圃や予備苗がある苗床が滞水している場合は、直ちに強制排水を行う。
- ③茎葉の損傷等により病害発生のおそれがあるので、薬剤散布を必ず行う。また、同時に草勢回復のために葉面散布剤を混用する。
- ④育苗床や本圃において炭疽病・疫病・萎黄病が発生した圃場では、浸水によりこれらの病害が広がるおそれがあるので、直ちに薬剤散布を行い、健全株への伝染を抑える。
- ⑤茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- ⑥苗の傷みがひどい場合は、直射光線を防ぐため、寒冷紗等を被覆して草勢の回復を図る。

(2) 施設ナス・キュウリ・トマト等

- ①栽培中で茎葉への損傷等による病虫害のおそれがある場合や、浸水した圃場では、イチゴの②③④と同じ。
- ②茎葉の被害が著しい場合は、整枝、切り戻し、植え換えを検討する。
- ③被害がなかった圃場でも、葉面散布剤を混合した薬剤散布を行う。
- ④防虫ネットが破損した場合は早急に修復する。

(3) 雨よけ野菜

- ①風雨で損傷を受けたハウスや、ビニル閉めこみを長時間行ったハウスでは、病害予防のため、台風使後は速やかに殺菌剤を散布する。
- ②破損したビニルはすぐに除去して新しいビニルを被覆し、茎葉がその後の降雨に当たらないようにする。
- ③軟弱野菜類のべたがけは直ちにはずし、萎れが予想される場合には寒冷紗等で天井を被覆する。

(4) 露地野菜

- ①風雨によって作物に損傷が生じた場合は、痛んだ茎葉や果実を除去する。
- ②畦間に湛水している場合は、直ちに排水し、マルチを畦の肩まで上げ、過湿による根傷みを防ぐ。
- ③支柱の傾きを直し、誘引資材の損傷があれば補修する。
- ④茎葉の損傷等による病害発生を防ぐため、低濃度の薬剤散布を行う。また、草勢回復のため、同時に葉面散布剤を混合する。
- ⑤倉庫等に移動した苗は、速やかに寒冷紗等で被覆したハウスに移す。

IV 花き

1. 生育ステージ

(1) 施設花き

- ①キクは、育苗期、生育期から収穫期のものがある。
- ②バラは、収穫期間となっている。
- ③カーネーションは、生育期となっている。
- ④トルコギキョウは、平坦では定植期から生育初期であり、中山間地では出荷期終盤となっている。
- ⑤シンテッポウユリは一部生育期のものがある。

(2) 露地花き

- ①キクは生育期から出荷期のものがある。

2. 事前対策

(1) 施設花き

- ①密閉するハウスは、ハウスバンドを締め直し、棲面の天井部に防風ネットや海苔網等を被覆する。
- ②栽培中のビニルハウスや硬質ビニルの施設は密閉し、吸気口を閉めて換気扇を回す（吸気口を完全に閉めるとブレーカーが落ちるタイプのものは、吸気口に隙間を設けるか、換気扇の回転数を落とす）。
- ③加温機、自動開閉装置等の機材や関連施設の対策も十分に行う。
- ④栽培が終了し、土壌消毒を行っていないハウスは、早めにビニルを除去する。
- ⑤台風の強さによっては、ハウス本体を守るためにビニルを除去する。
- ⑥タンクに清水を汲んで置き、台風通過後の水洗や防除等に備える。
- ⑦施設ギク等、電照栽培や電力を使用する機器、装置を用いる施設花き類では、停電に備え自家発電機の準備、点検を行う。

(2) 露地花き

- ①倒伏・茎曲りを防止するため、ネット上げやネット及び支柱の固定を行う。
- ②圃場の周囲に排水溝を掘り、排水条件を良くする。
- ③収穫できるものは早めに収穫する。
- ④マルチ等は飛ばないようにしっかり止めておく。
- ⑤タンクに清水を汲んでおき、台風通過後の水洗や防除等に備える。

3. 事後対策

(1) 施設花き

- ①破損したハウスでは修理を早急に行い、雨がかからないようにする。
- ②ハウス内に水が入った場合は、早急に排水を行う。
- ③倒伏した場合は、速やかに元に戻し、ネットや支柱で固定する。
- ④茎葉の損傷等による病害発生のおそれがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- ⑤急激に天候が回復した場合、強光による葉焼けを防止するため、光量に応じた遮光資材のきめ細かな対応に努める。
- ⑥電照ギクは、電照装置が正常に稼働しているか確認する。

(2) 露地花き

- ①倒伏した場合は、速やかに元に戻しネットや支柱で固定する。
- ②圃場に水が溜まった場合は、速やかに排水を行う。
- ③茎葉が汚れた場合や潮風害のおそれがある場合は、直ちに清水を散布して洗い流す。
- ④茎葉の損傷等による病害発生のおそれがあるので、薬剤散布を行う。また、同時に葉面散布を行い、草勢の回復を図る。
- ⑤マルチ下の土壌が過湿状態にあるときは、雨が上がってからマルチを剥ぎ、畦肩を露出させ土壌を乾燥させる。

V 果樹

1. 生育ステージ

(1) カンキツ類

- ①露地カンキツ類は、品種により果実肥大期から着色期～収穫期である。
- ②ハウスミカン収穫が終了している。

(2) 落葉果樹類

- ①ナシ、ブドウは露地栽培の収穫期である。
- ②カキは着色期～収穫期、キウイフルーツは果実肥大期である。

2. 事前対策

(1) 露地カンキツ類

- ①強風により枝葉や果実が傷つき、かいよう病が発生しやすいため、台風襲来の1～7日前に銅水和剤等の散布を行う。
- ②高接ぎ更新樹や開張性の強い品種では、強風による枝折れが心配されるため、支柱を立てて枝を誘引、固定する。また、幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- ③大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検・整備する。
- ④マルチ被覆園では圃場を点検し、マルチ押さえを増やすなど、風により被覆資材が飛ばされないようにしておく。
- ⑤風向きによっては潮風害が発生するおそれがあるので、散水のための清水を確保しておく。

(2) 施設栽培

- ①ハウス全体を点検し、破損個所の修理、ハウスバンドの締め直しを行う。
- ②強風時にはハウスの強度を高めるため、完全にハウスを密閉し、換気扇を作動させてハウス内を負圧にし、ビニルのあおりを少なくする。
- ③パイプハウスの強度は一般に風速 30m/s とされている。風が強すぎる場合にはハウス本体を守るために、ビニルを開放する。

(3) 落葉果樹類

- ①収穫期を迎えている果実で収穫可能なものは収穫する。
- ②果樹棚の点検を行い、破損個所等の補修を行っておく。また、上下のあおりで果実のスリ傷や落果が増えるため、パイプによる補強やアンカーによる引き下げを行う。
- ③枝葉の損傷や落果防止のために、結果枝を誘引・固定する。

- ④幼木は頑丈な支柱を立てて誘引・固定し倒伏を防止する。
- ⑤強風雨によりカキの炭疽病等の発生が増加するため、台風襲来前に薬剤防除を行う。

3. 事後対策

(1) 共通

- ①果樹カメムシについて、台風通過後に園内外を確認し、飛来を確認した場合は直ちに薬剤散布を行う。

(2) 露地カンキツ類

- ①潮風害の発生が懸念される場合は、台風通過後なるべく早く2 t / 1 0 aの真水を散水し、付着した塩分を洗い流す。
- ②強風や土砂崩れ等で倒伏した樹は、早急に起こし支柱を立てて誘引・固定する。また、根元を敷きワラ等で保護して樹勢の回復を促す。
- ③強風で折れた枝は早急に元に戻し、ヒモ等で結束する。枝折れがひどい場合は切り落とし、傷口に癒合剤を塗布する。
- ④マルチ栽培で被覆資材がはがされた場合は、台風通過後直ちに修復するとともに、晴れ間をみて資材を開放し土壌の乾燥に努める。

(3) 施設栽培

- ①ハウス施設が損壊した場合には、早急に修復する。
- ②ハウス内に雨水が浸入した場合には、園外への排水を図る。また、ハウス内の湿度を下げるため、換気を十分に行う。

(4) 落葉果樹類

- ①落果した果実はヤガ等の吸汁害虫が誘引されるため、集めて園外に持ち出す。
- ②果樹棚や防風ネット等の施設の損傷は早めに修理する。
- ③倒伏した樹は早急に立て直し、根元を保護して樹勢の回復を促す。
- ④強風によって枝葉が損傷しており、カキの炭疽病等を始めとした病原が感染しやすくなっているため、台風通過後は早急に薬剤散布を行う。

VI 茶

1. 生育ステージ

- (1) 現在は秋芽の生育時期であり、一部で秋冬番茶を摘採している。

2. 事前対策

- (1) 大雨による土壌流亡や土砂崩れを防ぐため、園内外を巡回し集排水溝を点検、整備する。
- (2) 幼木はマルチのおさえを確認し、強風でマルチがはがれないようにする。
- (3) 風向きによっては潮風害が発生する恐れがあるので、散水のための清水を確保しておく。

3. 事後対策

- (1) すでに秋冬番茶の摘採が終了した茶園および強風で葉傷が生じた園では、できるだけ早く銅水和剤（赤焼病の常発園はカスミンボルドー）の散布を行う。
- (2) 幼木園での被害状況を点検し、マルチのはがれや株の浮き上がりがみられる場

合は元の状態に戻す。株が動いた場合は、早めに土寄せを行い、敷きわら等で地際部や根を保護する。

- (3) 先枯れ、枝枯れ等の被害が大きい場合は、樹の回復後に被害部の直下でせん除する。
- (4) 潮風害の発生が懸念される茶園、特に海岸線に近い茶園では台風通過後速やかに清水を散水し、付着した塩分を洗い流す。

VII 畜産

1. 事前対策

(1) 畜舎・家畜

- ①畜舎及び堆肥舎などの点検・整備を行い、風雨の侵入を防止する。
- ②畜舎周辺の排水溝を清掃し、排水対策を行う。
- ③畜舎周辺の施設、飼料タンクなどが暴風雨で飛ばないように固定を強化する。
- ④庇陰樹の整枝、板、スレート材などの飛来原因物を整理する。
- ⑤夜間の突発的作業や停電時に備えて、作業手順の確認や道具の整理・整頓、自家発電装置、照明器具などの準備を行う。
- ⑥停電時には井戸ポンプが止まり家畜の飲料水が不足することがあるので、ポリタンク等に予備飲用水を確保する。※1頭(羽)当たり必要量(L/日)：50(肥育牛)～150(乳牛)、30(豚)、1(鶏)

(2) 飼料作物

- ①飼料作物・稲わらは収穫できるものはすみやかに収穫する。また、ロールベールの倒壊や収穫・保管中の乾草・稲わら等の飛散防止に努める。

2. 事後対策

(1) 畜舎・家畜

- ①家畜の観察を行い、異常家畜の早期発見に努める。また、台風通過後の畜舎環境整備のため換気等を十分に行う。
- ②畜舎に雨水などの侵入があった場合は直ちに清掃した後、逆性石鹼500～1,000倍液を1～2L/m²噴霧するか消石灰を散布して消毒する。また、新鮮な飲料水、腐敗やカビのない飼料を確保し、敷料は、新しいものに交換する。
- ③速やかに被災状況を確認し、被害施設の補修、修繕や家畜の事故につながる飛来物などの除去を行う。また、電気配線等の切断や漏電に注意する。

(2) 飼料作物

- ①刈り取り間近のものや倒伏したものは早めに収穫・調製する。
- ②ロールベールサイレージ等のラップが破れた場合は、破損部分を直ちに補修し、早めに家畜に給与する。